



「シカ問題」 誤解して いませんか？



シイタケを食べるニホンジカ

人工林の増加と荒廃で、山に食べ物が無いから、里へ農作物を食べに出てくる

誤解です

- ・人が食べておいしい**農作物は、シカにとってもおいしい**。田畑、果樹園には魅力的な食べ物がたくさん存在し、**誘引されるシカもいます**。
- ・伊豆半島の森林内 63 箇所、平成 19～21 年度に生息密度を調査したところ、平均約 0.3 頭/ha の高密度でシカが生息していました。個体数の増加とそれに伴う分布拡大により、農作物を食べるシカが増加しています。
- ・高密度化した伊豆半島でも、多くのシカは森林内に生息し、主に近くにある草地的な場所で植物を食べて生きています。冬は、常緑広葉樹の落葉やササなどを食べて乗り越えています。

ハンターが減り、捕獲数も減ったので、シカが増えている

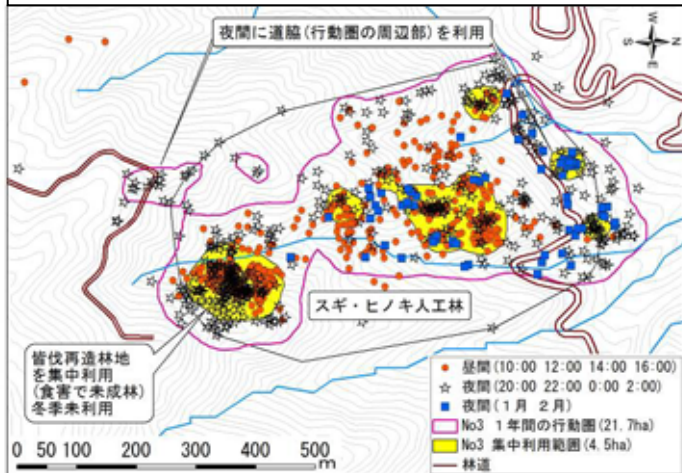
誤解です

- ・確かに狩猟者（ハンター）は減少。でも**シカの捕獲数は増えています**。
- ・乱獲による減少から、**最近までメスの狩猟を禁止して保護**。そのため、子を産む**メスの個体数が回復し、今では増えすぎてしまいました**。
- ・人やオオカミなどの**捕食者がいない草食獣は、個体数が増える**のです。

裏面には、
詳しい説明が
あります。



GPS 首輪で追跡したメスジカの行動圏 ほとんどが人工林の狭い範囲でずっと生活



伊豆半島において、メスジカに GPS 首輪を装着して詳細な行動調査を行った結果、行動圏が狭く（8ヶ月以上追跡できた10頭の行動圏は、平均54ha）、季節移動がないことがわかりました。

昼間は、道路から少し離れた針葉樹人工林内で休息し、夜間に、口が届く範囲の植物生産量が多い開放的な環境（伐採地、ササ草原、ゴルフ場、道脇など）を利用していました。ただし、冬に、開放的な環境で食物となる緑葉がなくなると、森林内で常緑樹の落葉などを採食しているようでした。



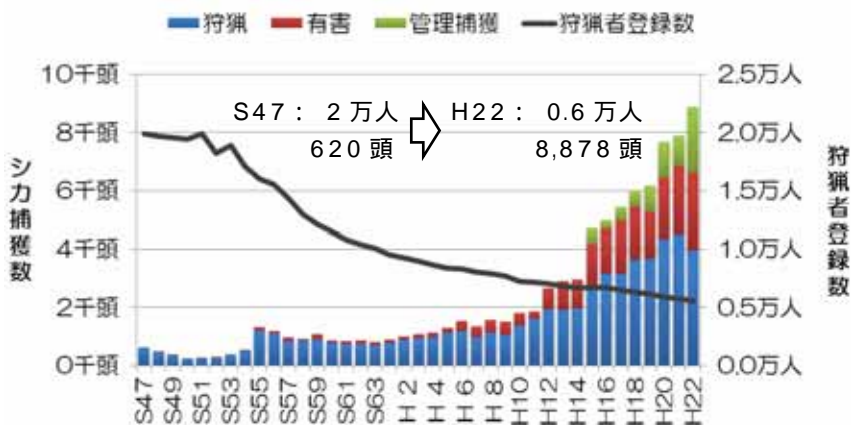
柵内 防鹿柵 柵外

GPS 首輪

また、森林内に防鹿柵を設置すると、その内外で植物の量に差が生じ、シカの採食により植生が衰退していることもわかりました。

現状では、シカの増加に応じて捕獲数は増えていますが、一気に個体数を減らせる状況には至っていません。

今後、ハンターの高齢化と減少がさらに進むことが予想され、メスジカを効率よく捕獲する技術の開発が求められており、研究に取り組んでいます。



静岡県におけるシカ捕獲数と狩猟者数の推移

発行日：平成25年3月1日
 編集：静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター
 発行：静岡県森林・林業研究センター振興協議会
 〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 (静岡県森林組合連合会内)
 TEL (054)253-0195 FAX (054)253-2328

